

# ◆健康へのワンポイントアドバイス◆

## 「喫煙による健康被害」

福島労災病院 リウマチ・膠原病内科

様々な因子の影響を統計学的に補正して分析した結果、喫煙が寿命を縮める最も大きな原因であることが判明しています。

タバコの煙からは、現在70種類以上の発がん物質が検出されています。喫煙は、肺がん以外にも全身10カ所のがんと因果関係が「確実」であることが判明しています。がんの他にも脳卒中、虚血性心疾患（心筋梗塞や狭心症）、慢性閉塞性肺疾患、早産、胎児発育遅延などの疾患とも因果関係が「確実」と判明しています。

また、受動喫煙でも、肺がんを始め脳卒中、虚血性心疾患、喘息、乳幼児突然死症候群などが引き起こされることが「確実」と判明しています。

**たばこを吸っている本人はこんな病気になりやすくなる(根拠十分: レベル1)**

がん	その他の疾患
鼻腔・副鼻腔がん	脳卒中
口腔・咽頭がん	ニコチン依存症
喉頭がん	歯周病
食道がん	慢性閉塞性肺疾患(COPD) 呼吸機能低下 結核(死亡)
肺がん	虚血性心疾患
肝臓がん	腹部大動脈瘤
胃がん	末梢性の動脈硬化
膵臓がん	2型糖尿病の発症
膀胱がん	妊娠・出産
子宮頸がん	早産
	低出生体重・胎児発育遅延

レベル1は「科学的証拠は、因果関係を推定するのに十分である」と判定された疾患です。レベル2は、「科学的証拠は、因果関係を示唆しているが十分ではない」ものです。がん患者が別のがんを発症する「二次がん罹患」と喫煙との関連はレベル1、がんの再発、治療効果低下との関連はレベル2と判定されています。

**受動喫煙でまわりの人はこんな危険が高くなる(根拠十分: レベル1)**

大人	子ども
脳卒中	喘息の既往
鼻気・鼻への刺激感	
肺がん	
虚血性心疾患	
妊娠・出産	
乳幼児突然死症候群(SIDS*)	

受動喫煙が大人の健康に及ぼす影響では、肺がん、虚血性心疾患、脳卒中がレベル1と判定されています。また、たばこの煙による呼吸器の急性影響についてもレベル1です。鼻腔・副鼻腔がん、乳がん、慢性呼吸器症状、喘息などへの影響はレベル2と判定されています。

子どもの受動喫煙でレベル1と判定されているのは、乳幼児突然死症候群(SIDS)と喘息の既往です。子どもの呼吸器症状や呼吸機能の低下、虫歯などについてはレベル2と判定されています。未成年者の喫煙は、がんや循環器疾患だけでなく全死因の死亡リスクを増加させます。

厚生労働省 喫煙の健康影響に関する検討会報告書(平成28年8月)の概要を知りたい人のためにより引用